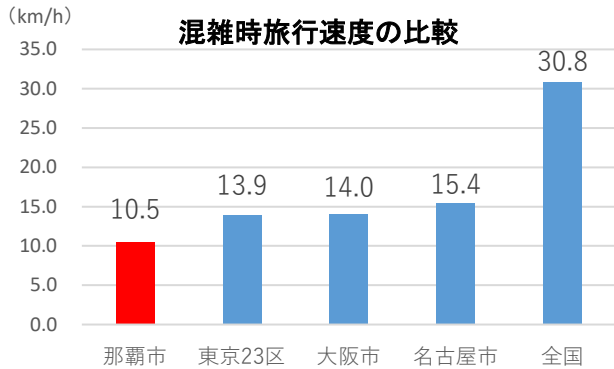


沖縄の道路渋滞対策

沖縄の道路交通の現状・課題とその背景

○全国ワーストクラスの渋滞

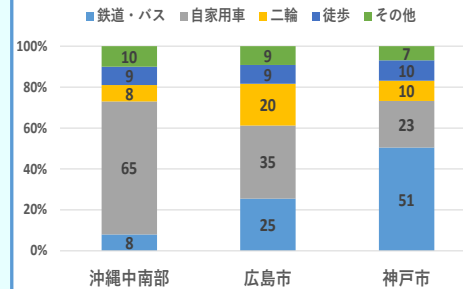


出典：令和3年度 全国道路・街路交通情勢調査

○極端なマイカー依存

公共交通分担率は、同程度の人口密度の都市に比べ著しく低い

通勤通学時の主な交通手段



出典：令和2年度国勢調査を基にした内閣府調査

○観光客の増加

観光客数(R6年度):約 995万人
(H24年度比約1.6倍)

出典：入域観光客概況 令和6年版

○観光客増に伴うレンタカー保有台数の増加

観光客の利用する交通手段はレンタカーが多く、
レンタカー利用は増加傾向
レンタカー保有台数(R6年度):56,658台
(H24年度比約2.2倍)

出典：令和7年度版 運輸要覧・業務概況

渋滞解消に向けて取り組むべき施策

○道路ネットワークの整備 <交通容量の確保>

- ・ハシゴ道路ネットワークの整備、幹線道路網の整備
－沖縄西海岸道路、那覇空港自動車道、名護東道路 等
- ・渋滞ボトルネック箇所における交差点改良等
－主要渋滞箇所の選定、ピンポイント渋滞対策 等
- ・インターチェンジの整備促進
－スマートインターチェンジの追加整備 等

○公共交通利用の促進 <交通量の抑制>

- ・公共交通の利便性向上
－モノレール3両化、バスレーン延長 等
- ・交通結節点の整備
－てだこ浦西駅P&R、幸地IC(仮称)整備 等
- ・県民・企業等の意識変革
－住民・訪問者や地域のステークホルダー(組織団体・企業等)の参加を得て交通のあり方を検討

『ハシゴ道路ネットワーク』の整備

■ 南北を走る強固な【3本の柱】

【西側の柱】国道58号

【中央の柱】沖縄自動車道

【東側の柱】国道329号

■ 3本の柱を支える【東西連絡道路】

沖縄嘉手納線、宜野湾北中城線、浦添西原線など

■ 高速道路を使いやすくする【インターチェンジ】

喜舎場スマートIC、幸地IC、池武当ICなど

凡例	
直轄国道 (西側の柱)	開通済み 事業実施中 計画中
直轄国道 (東側の柱)	開通済み 事業実施中 計画中
沖縄・那覇空港 自動車道 (中央の柱)	開通済み 事業実施中 計画中
地方道 (東西連絡道)	開通済み 事業実施中 計画中

※2026年4月1日時点

	: 既存IC
	: 既存SIC
	: 予定(地活・スマート)IC
	: 事業中IC



主要な道路事業

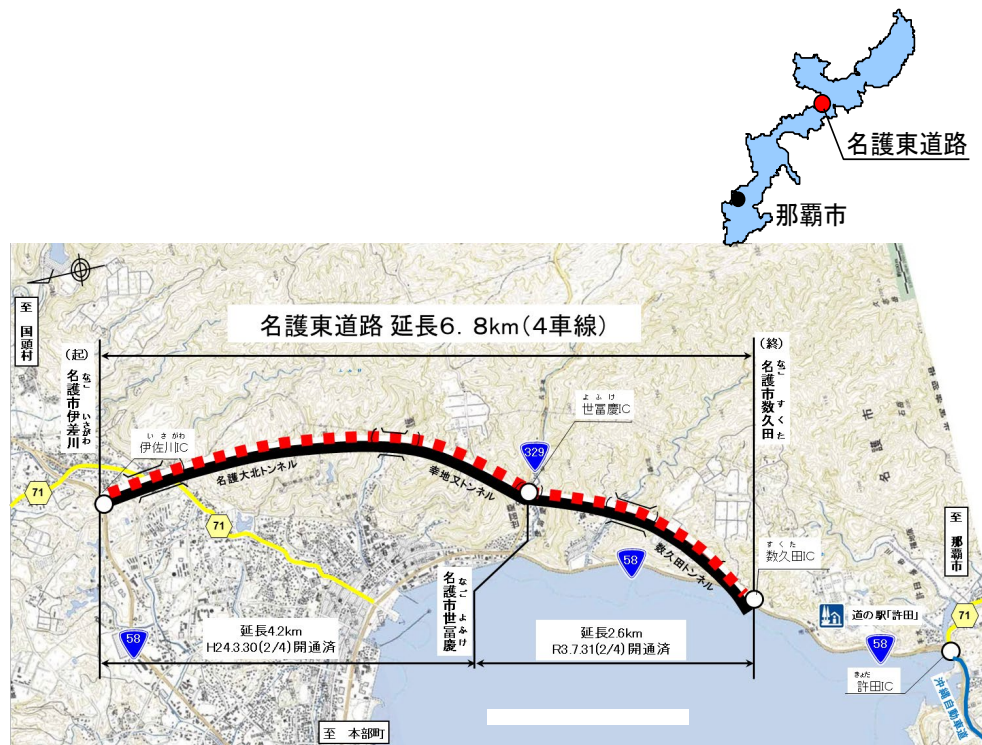
沖縄西海岸道路

- ・よみたんそん いとまんし
読谷村から糸満市に至る延長約50kmの高規格道路
- ・那覇空港・那覇港等の広域交通拠点と観光・リゾート地区を相互に連絡することにより、観光振興、地域の活性化等の地域振興を支援



国道58号 名護東道路

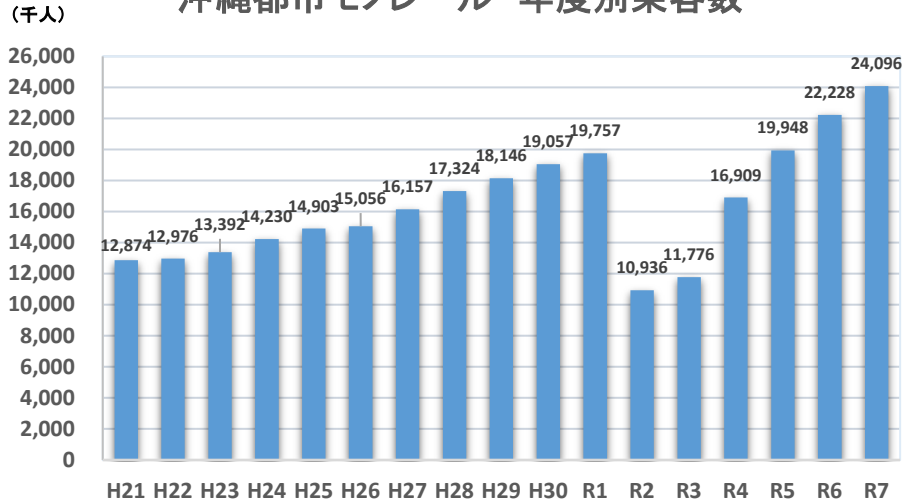
- ・沖縄自動車道と北部広域市町村圏(12市町村)の中心である名護市の市街地を結ぶ路線
- ・那覇空港・那覇港等の広域交通拠点とをネットワーク化することにより北部地域の活性化を支援するとともに、名護市街地の渋滞緩和を図る
- ・令和3年7月31日に全線開通済み(暫定2車線)



沖縄の交通環境改善の取組み

- 近年の乗客数の増加、路線延伸や那覇空港第二滑走路供用に伴う更なる乗客数の増加への対応が喫緊の課題。
- 輸送力を増強するため、現行の2両編成を3両編成化し、併せて運行に必要な車両基地の拡張整備等を実施。3両編成化の加速化のため補助率引き上げ。
- 令和5年8月10日に3両化車両の運行開始。(当初は2編成にて運行)
- 令和7年度、年度別乗客数が過去最高を更新。

沖縄都市モノレール 年度別乗客数



- 令和8年3月20日に5編成目が運行開始。
- 合計9編成を調達予定

- 自家用車依存および観光客利用のレンタカーが多く交通渋滞が慢性化し生活や経済に対する影響への対応が課題。
- 公共交通の利用促進に向け、沖縄自動車道と沖縄都市モノレールとの公共交通ネットワーク形成を目的に幸地ICの整備を推進。

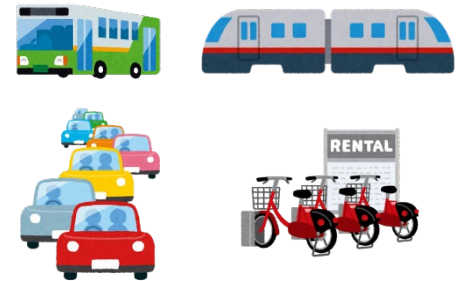


幸地IC

- 過度な自家用車依存から脱却し、公共交通等への転換を図るための調査検討を実施。
- 交通結節点の機能強化等の計画、施策の実証を実施。



ただこ浦西駅周辺状況



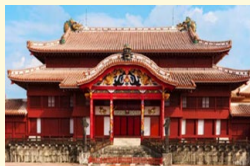
他モードとの連携

国営沖縄記念公園首里城地区における火災と復元に向けた取組

- ・国営公園事業として復元整備を進めてきた首里城において、令和元年10月31日に火災が発生し、正殿等主要施設が焼失。
- ・政府は、火災後速やかに「首里城復元のための関係閣僚会議」を設置し、令和元年12月「首里城復元に向けた基本的な方針」を決定。この方針の下、関係省庁における検討を進め、地元の有識者らによる「首里城復元に向けた技術検討委員会」における議論も踏まえて、「首里城正殿等の復元に向けた工程表」(令和2年3月27日同関係閣僚会議)を決定。
- ・令和4年11月3日に「首里城正殿復元整備工事起工式」を行い、正殿の令和8年の復元に向けた取組を進めている。

○国営沖縄記念公園(首里城地区)の概要

- ・首里城は昭和61年の閣議決定に基づき、国直轄の国営公園事業として復元整備を実施。平成4年に正殿等が完成。
- ・その後も整備を続け、平成31年2月に全面開園となった。
- ・国営公園周辺は県営公園として一体的に整備。



火災前の首里城正殿

○沖縄県による管理運営

- ・県の要望を踏まえ、国が管理許可を行い、平成31年2月より、県が正殿等の管理運営を担当。(県指定管理者:沖縄美ら島財団)

○火災による焼失

- ・令和元年10月31日午前2時41分頃火災発生。正殿等9棟焼損。
- ・警察・消防が調査し、出火原因について以下のとおり発表。

沖縄県警

「犯罪に該当する事実は見当たらない。原因の特定に至らなかった」(R2/1/29)

那覇消防

「原因を特定できるような物証が得られなかった。火災原因の特定が難しく、出火原因については、不明とする」(R2/3/6)

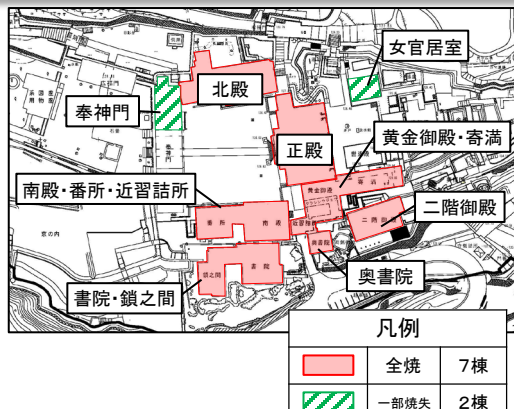
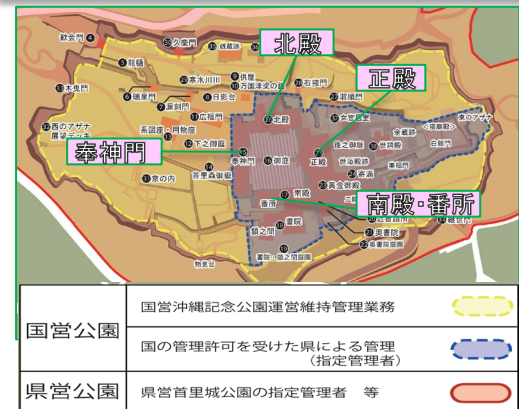
○首里城正殿等の復元に向けた工程表(抄)

(2020年3月27日首里城復元のための関係閣僚会議)

…首里城正殿について、令和2年度(2020年度)早期に設計に入り、令和4年(2022年)中には本体工事に着工し、令和8年(2026年)までに復元することを目指すこととし、北殿や南殿等を含め…復元に向けた取組を進めることとする。その際、復元過程の公開や観光振興など地元のニーズに対応した施策を推進する。…

(別添)首里城正殿等の復元に向けたスケジュール

		(年度)									
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9以降	
材料調査 (大径材)			市場調査								
	設計		基本設計	実施設計							
材料調達 (大径材)				調達 乾燥							
工事			仮設道路 がれき撤去	木材倉庫							
					発注手続(WTO)		本体工事				
北殿、南殿等			撤去 正殿復元の施工ヤードとして使用							工事	
			撤去 検討								



凡例

 	全焼	7棟
 	一部焼失	2棟

R元年10月31日火災による被害状況

○事業概要



正殿 金龍五色之雲上塗り中
(R8 2/16)



大龍柱 石階段設置中
(R8 2/26)

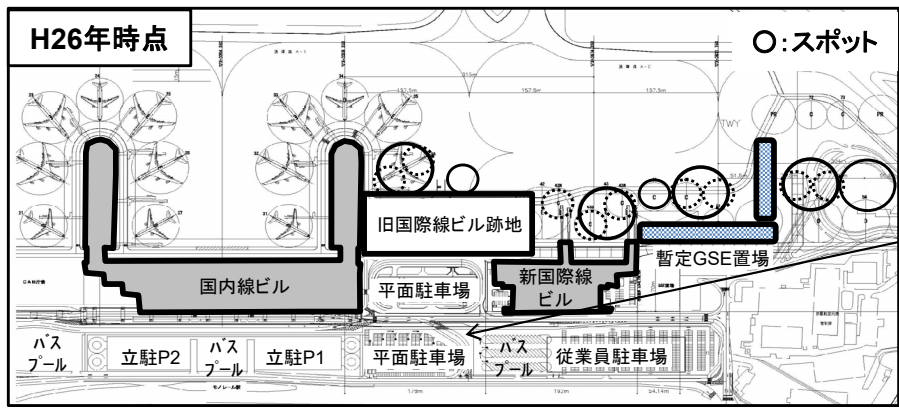


水槽2配管設置中
(R8 2/26)

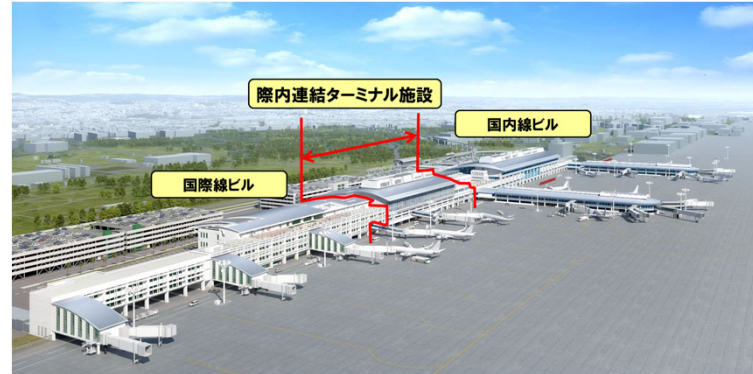
首里城公園の管理区分

那覇空港国際線ターミナル地域再編事業

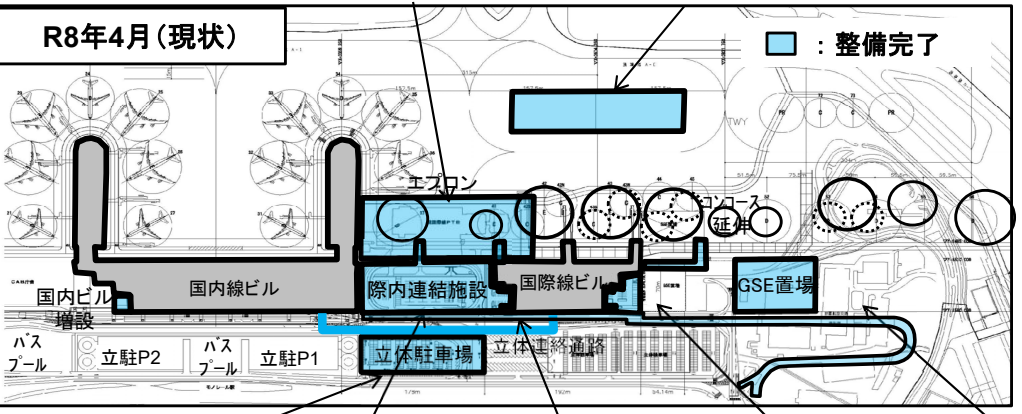
- 那覇空港では、国際航空需要の増加に伴う施設の狭隘化・老朽化に対応するため、平成21年度から国際線ターミナル地域再編事業を実施している。
- 平成26年2月に新国際線旅客ターミナルビル、平成31年3月に際内連結ターミナル施設、令和4年8月に拡張整備を行った国際線ビルCIQ施設、令和7年6月に国内線ビル(3階)に直結する高架道路の国際線ビルまでの延伸部を供用したところ。
- 今後もさらなる需要拡大を見据え、高架道路拡幅やエプロン拡張など、引き続き必要な整備を行う。



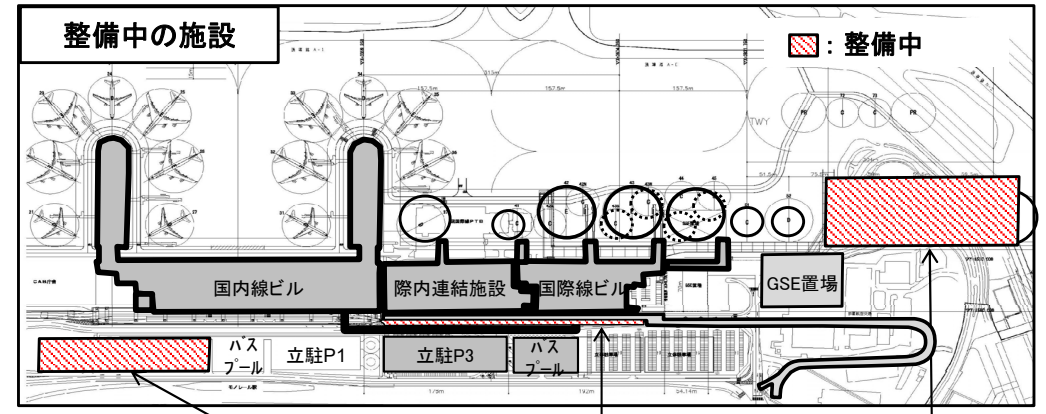
駐車場混雑状況



際内連結ターミナル施設



- 立体駐車場 (H28年9月供用)
- 際内連結施設 (H31年3月供用)
- 高架道路延伸 (R7年6月供用)
- CIQ施設拡張 (R4年8月供用)
- GSE置場 (H31年2月供用)



- 立体駐車場拡張
- 高架道路拡幅
- エプロン拡張

沖縄におけるクルーズ船の受入れ環境の整備

○観光がリーディング産業である沖縄において、那覇港、^{ひらら}平良港、石垣港および本部港^{もとぶ}の各港で国際クルーズ船の受入れ環境の整備を実施。

○現在、4港ともに岸壁整備が完了し22万トン級の大型クルーズ船の受入れが可能となっている。

那覇港

撮影：令和7年6月



事業期間：令和元年度～令和10年度、事業費：156億円
※令和4年3月に延長430m、水深12mの岸壁完成。(残事業あり)

平良港

撮影：令和5年5月



事業期間：平成29年度～令和3年度
事業費：162億円
※令和4年3月に延長420m、水深10.5mの岸壁完成。

石垣港

撮影：令和5年5月



事業期間：平成17年度～令和11年度
事業費：367億円
※令和3年3月に延長420m、水深10.5mの岸壁完成。(残事業あり)

本部港

撮影：令和4年6月



事業期間：平成8年度～令和3年度
事業費：124億円
※令和4年11月に延長420m、水深10.5mの岸壁完成。

内航フェリー・RORO船の活性化

○RORO船※の大型化に対応した岸壁延長の確保、貨物量増加に対応したふ頭用地の拡張を行う。

○那覇港は令和5年度より岸壁延長280m等を整備中。

平良港は平成24年度より事業を開始し、令和7年6月に岸壁全延長440mを供用開始。引き続き防波堤を整備中。

那覇港

撮影：令和4年8月撮影



整備箇所

新港ふ頭地区

事業名：那覇港新港ふ頭地区ふ頭再編整備事業
事業期間：令和5年度～令和9年度
事業内容：岸壁、港湾施設用地、ふ頭用地、臨港道路
事業費：224億円

平良港

撮影：令和7年5月撮影



漲水地区

事業名：平良港漲水地区複合一貫輸送ターミナル改良事業
事業期間：平成24年度～令和13年度
事業内容：岸壁、港湾施設用地、ふ頭用地、臨港道路、防波堤等
事業費：220億円

※RORO船：「ROLL-ON ROLL-OFF 船」の略。貨物を積んだトラックやトレーラーをそのまま運ぶことの出来る船舶。

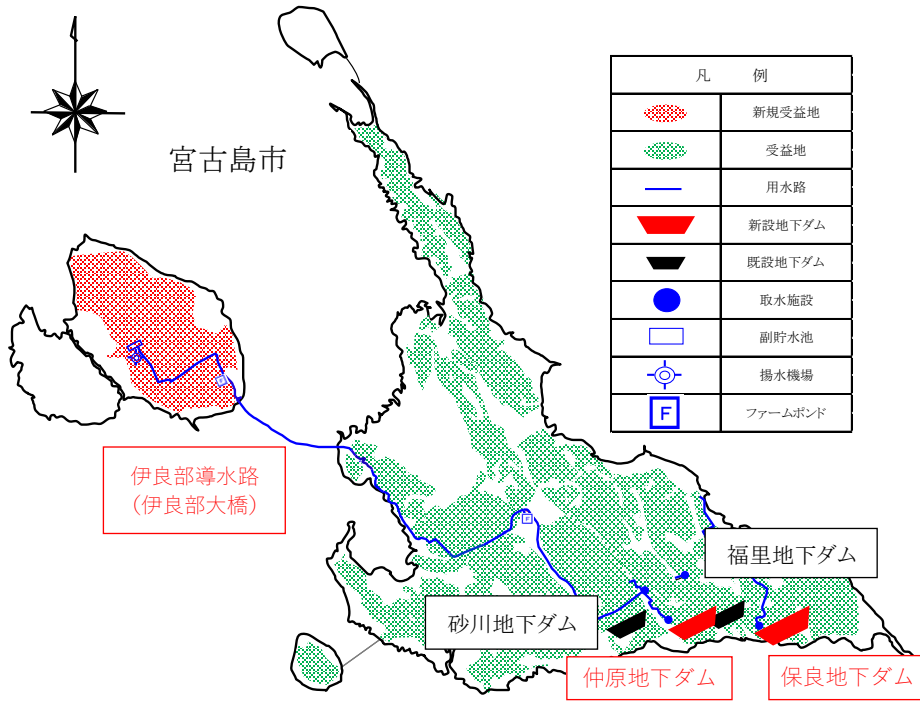
農業生産基盤の整備

- 慢性的に干ばつ被害を受ける沖縄において、農業用水を安定供給するための施設等は農業生産を支える重要なインフラ
- 農業生産基盤の整備によって生産性の向上を図り、亜熱帯地域等の特色を生かした農業を振興

水源の乏しい地域において、地下ダム等の水源施設や幹線水路を整備し、農業用水の安定供給を確保

農業用水源の確保と併せ、スプリンクラー等の畑地かんがい施設の整備、農地の区画整理等により、農業の生産性を向上

(事例) 国営かんがい排水事業「宮古伊良部地区」



(参考) 地下ダム模式図

